

日本女子体育大学附属二階堂高等学校

第七十五回 入学式

式 辞

厳しい冬を乗り越えた草木が芽吹き、新たな生命力を実感できる季節となりました。

本日、第七十五回入学式が挙行できますことは、本校にとってこの上ない喜びであり、日頃よりご支援いただいている、多くの皆様に感謝申し上げます。

さて、新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。在校生、教職員一同心から歓迎致します。ご家族や保護者の皆様にも、心よりお慶びを申し上げます。

皆さんは、今日から本校の生徒の一員となりました。この喜びは、一人一人が、目標に向かって、努力を継続してきたからこそ、得ることができたものです。しかし、その陰には皆さんを支え、育てて来られたご家族のご苦勞や、各中学校でご指導いただいた、先生方の支援があったことも、忘れてはなりません。

本日、新たな一步を踏み出すにあたり、お世話になった方への、感謝の気持ちを忘れることなく、更なる高みを目指し、大きく成長することを期待しています。

本校は、創立以来七十四年間の歴史と、約一万二千人の卒業生が、今日まで築き上げてきた、素晴らしい伝統や校風があります。部活動も盛んで、毎年全国大会、関東大会に出場するなど、輝かしい実績を残し、高い評価を得ています。

建学の精神でもある、学園創立者の二階堂トクヨ先生が提唱した「スポーツを中軸とした教育を実践することにより、心身ともに健康な人を育成する」という教育理念に基づき、特色ある教育活動を、実践してきました。

また、校訓である「勤勞」「感謝」「礼節」を重んじ、何事にも意欲的で、礼儀をわきまえ、豊かな教養と、忍耐力や、協調性を身に着けた生徒を育てています。

つまり、先が見えない不透明な社会の中で、豊かな心を持ち、たくましく生き抜く力を、育むことが、本校における、教育活動の根幹となっています。今後も、建学の精神を継承し、生徒の成長と、本校の発展のために、計画的に組織的に取り組んで参ります。

皆さんは、本校の長い歴史の中で、初めて一年時より、5コース制を導入した学年になります。自己を知り、幅広い分野を学習するコースや、専門性を深め、未来につながるコース等、特色ある、学びの深化を、三年間で探究します。各コースにおける学習活動は、今後の夢や希望の実現にも、大きな影響を及ぼすことから、皆さんの新たな挑戦と、成果を期待しています。

次に、これからの三年間を、有意義で充実した毎日を送るために、必要な話をします。

まず、高校は中等教育に位置づけられた学びの場です。内容は各教科・科目における、先生方との共同での学び。アクティブラーニングや行事における生徒同士の学び。放課後の、委員会や部活動における自主的な学びなど、学ぶ機会は数多く設定されています。

先月、大分県にある別府大学の卒業式で、82歳の馬場駿二さんが、大学院を卒業した記事を読みました。卒業式に臨んだ馬場さんは、「知識を得ることは、何歳になっても楽しい」「修士論文の執筆は面倒で、長期にわたり苦しんだが、素晴らしい経験になった。」と述べています。

78歳で大学院に入学。そして卒業。年齢を超えた、「学習意欲」と「知識の追究」には、驚きを禁じ得ません。

皆さんも、学ぶ意欲つまり、知的好奇心を育み確かな学力を定着させてください。

また、高校での学びは、多くの知識を吸収し、一つの問題に対して答えを導き出しますが、同時に思考力を鍛えることにもつながります。思考力とは、SNS、マスメディア、書籍、そして人との対面による情報を、むやみに信じたり、否定したりするのではなく、事実に基づき、自分で考え、判断する力のことです。

このような思考力を活用し、SDGSにおける17項目におよぶ、持続可能な開発目標や、多種多様な価値観に対する対応。そして、ロシアとウクライナの和平問題など積極的に考え、解決策を導き出すことも必要です。さらに正解のない課題を、どのように捉え、推測し、解決までの結論を導き、表現するかを実践することが求められます。

皆さんがこれからの三年間で、学力を含めた、思考力や表現力を高め、立派に成長することを期待しています。

次は、水泳の大橋悠依選手についてです。大橋選手は、昨年開催された東京オリンピッ

クで、200mと400mの個人メドレーで金メダルを獲得しました。日本の女子選手が、同じ大会で、複数の金メダルを獲得したのは、史上初の快挙で注目されました。

このような、大橋選手ですがいつも貧血に悩み、自信がない、後ろ向きな自分が付きま
とっている。日本を代表する選手に成長しても、精神面はやはり繊細で揺れ動く。

しかし、たと思ひ通りにいかなくても必死に自分と向き合う。そして覚悟を決め、腹
をくくり次の結果を出したい。と述べています。

また、今年に入り、競泳女子では初めて、肖像権を自ら管理する、プロスイマーに転向
しました。「意志あるところに道は開ける」この言葉を、長年信条とし、次のパリ オリン
ピックに向け心を整理し、自分を信じ切れるか。勝敗の分岐点は、周囲のライバルではな
く、いつも自分自身であると、断言しています。

世界のトップスイマーとして活躍する選手ですら、日々悩み、考え、記録に挑戦してい
ることは、今後皆さんが、多くの課題に立ち向かう時に、大いに参考になるのではないで
しょうか。

「意志あるところに道は開ける」心にとどめてください。

また、皆さんには、高校生として、常に到達点を設定し、生活することが求められます。
「頑張れば達成できる」目的と目標、そして手段を設定し、意欲的に努力することで、結
果を出すことは、自己肯定感を高め、社会に貢献する大人への近道でもあります。

結びになりますが、ご家族や保護者の皆様、本日は、誠に おめでとうございます。

今後も、感染症防止のため、緊急対応が予想されますが、生徒の健康と安全を優先しな
がら、学びの機会を保障し、心身ともに健やかに賢く、成長されますよう、教職員一同全
力で支援して参ります。

保護者の皆様におかれましては、本校の教育目標や、学年の指導方針を十分にご理解い
ただき、ご支援賜りますようお願い申し上げ、式辞と致します。

令和4年4月9日

日本女子体育大学附属二階堂高等学校

校長 工藤 公彦